

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム たんたん

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100941		
法人名	社団法人 三和会		
事業所名	グループホーム たんたん		
所在地	〒020-0502 岩手県岩手郡雫石町板橋3-7		
自己評価作成日	令和5年10月15日	評価結果市町村受理日	令和6年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人敷地内に老健(本館・2号館)があり、毎月合同イベントや喫茶店、居酒屋等も催されており、利用者様が楽しめるイベントが多い。当ホームの裏には「たんたん畑」があり、季節の野菜を栽培し利用者様と一緒に収穫作業ができるため、季節感を感じられるイベントのひとつとなっている。また、畑の隣には東屋もあり、天気の良い日に体操をしたり、外気に触れながら諸活動ができる環境になっている。ホーム内には看板猫の「マイケル」がおり、利用者はもちろんのこと、面会に来られるご家族様や施設職員の癒しの存在である。老健が隣接していることもあり、利用者様が急変時等には看護師がすぐに駆けつけることができるため安心感がある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小岩井農場に近い自然豊かな場所に位置し、法人が有する老人保健施設や在宅介護支援センター、通所リハビリテーション事業所が隣接している。老人保健施設の看護師が、定期的に健康管理のため来訪するとともに、災害時においても老人保健施設職員の応援等の連携体制が構築されている。法人と地域包括支援センター共催の認知症カフェの映画会や喫茶には、地域住民や家族も参加し、利用者は来訪者にお茶を出したり軽食を一緒に食べたりして楽しんでいる。事業所の裏側には、東屋や畑があり天気の良い日には散歩や野菜作りを楽しんでいる。春は県営体育館に花見に出かけたり、町場地区園地に手づくり弁当を持ってピクニックに行く等、季節ごとにドライブに出かけている。事業所の看板猫となっている「マイケル」が利用者や家族、職員だけではなく来訪者にも癒しになっており、自宅に近い雰囲気の中で安心して暮らすことができるよう支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳」や「家庭的」、「個性を活かす」ことを念頭に置いて日々のケアをするように心掛けている。特に、個性を重要視し各利用者にホーム内での役割を担っていただいたり、個別ケアを提供している。	玄関や事務室、手洗い場等の目に付く所に理念を掲示し、職員の共有に努めている。新しい職員が入った場合には、管理者自ら直接説明している。理念に沿って利用者が居宅同様に生きがいのある日常生活が送られるようにケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方を招いて、レクリエーション等を実施している。また、法人での取り組みとして認知症カフェを開催し、近隣住民の方を招いて映画会等をした。近隣住民の年齢層も高齢化しており、数年前のように参加してくださる方が少なくなっている。	地域の自治会に加入し、広報が届くほか事業所からも行事案内を出している。法人が8月に開催した認知症カフェの映画会や喫茶では地域住民20人程が参加し、利用者もウェイター、ウェイトレス役を務めた。法人では毎月、喫茶と居酒屋を交互に開催しており、利用者と職員が一緒になって地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天気の良い日には散歩に出かけ、地域住民の方と交流している。職員が仲介し会話できるように援助している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの取り組み等を報告し、家族代表の方や役場職員等からのご意見やご指摘は、職員間で共有、反映させていただいている。	家族代表や近隣住民、民生委員、総合福祉課の職員が委員となり2ヵ月毎に開催している。9月には対面で開催予定だったが、敷地内の老人保健施設で新型コロナウイルスの感染者が確認されたため書面会議となった。毎回、入居者の状況や事業所の活動報告を行い意見交換を行っている。委員から出された意見や提案を事業所運営やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類等の提出は直接役場に出向いているが、コロナの影響で回数は最低限で行っている。基本的には電話を利用して情報共有をしている。	介護保険認定申請等の書類は、担当課に持参しているほか、認知症カフェには地域包括支援センターと共催で開催し、職員の協力を得ている。運営推進会議にも町の総合福祉課の職員が委員に就任するなど、日頃から緊密に連携している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束に関する研修会を実施しており、ホーム職員も参加している。現在、転倒リスクがある利用者には、行動把握のためセンサーマットを使用し転倒防止に努めている。	法人として身体拘束廃止に関する指針を作成し、身体拘束廃止委員会を開催している。年2回法人が開催する研修会に参加し、朝の申し送り時に研修内容を報告し職員間で共有している。スピーチロックについては、気が付いた時に相互に注意しあっている。転倒防止のため1名がセンサーマットを使用している。玄関は、防犯のため夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待に関する研修会を実施しており、ホーム職員も参加している。言葉遣いや対応の仕方等、職員間で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で権利擁護に関する研修会を実施しており、当ホーム職員も参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面にて一項目ずつ、なるべく理解しやすい表現で説明することを心がけている。質問等は常時受け付けていることを伝え、随時説明をし納得していただけるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、家族代表の方からのご意見やご指摘は職員間で共有、反映させていただいている。また、家族参加型の行事を予定していたが、併設の老健でコロナ感染があったため中止になった。現在も面会謝絶中のため実施目途は立っていない。	家族が面会、金銭の持参及び利用者の通院への同行で来所したときなどに意見、要望を聞いている。利用者9人のうち8人は意思表示が可能であり、他の1人については表情や動作から希望などを把握している。10月に予定していた家族懇談会は隣接の老健施設にコロナ感染があったため無期延期となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時ホーム会議を行っており、利用者へのケアに関することや日常業務等についての検討を行っている。また、朝の申し送りの時間を重要視しており、日々のケアに関すること等を随時検討している。	個別面談は実施していないが、普段から自由に意見や要望を言える雰囲気がある。パソコンやプリンター等の物品購入や資格取得のための研修受講の要望が出され、できる範囲で対応するよう努めている。在籍職員7人のうち6人が希望する資格取得の研修を受講済みである。	

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、法人の施設運営会議があるため、職員の勤務状況等を報告している。労働時間に関しては特に気を使っており、なるべく残業等はさせないように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会があれば、積極的に参加していただいている。外部であれば、認知症実践者研修や医療的ケア(痰吸引)研修等。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回程、姉妹施設との交流会があり、互いの施設の情報交換を行っている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時になるべく関りを多くし、職員との関係作りも大切だが、特に他利用者との関係の構築をし、これから始まるホームでの生活に不安を感じないように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所時には、不安に感じていることや要望をこちらから聴取している。安心していただけるように、なるべく丁寧に説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には入所前情報を元に支援を行っていく。初期段階では他サービス利用は視野にないが、援助していく中で必要性を感じるがあれば検討やご家族へ提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者に役割を担っていただき、「いつも助かってますよ。」等と感謝を伝えるようにしている。		

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアの方向性に困った時等には、ご家族に相談し助言をいただいたりしている。また、定期的に利用者の近況報告等を行い、疎遠にならないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイケアを利用している方が時々面会に来られていた。	ほとんどの家族は、毎月来所している。また、遠方にいる家族からも電話や手紙が頻繁に届いている。花見やピクニック等のドライブで昔訪れたことのある場所や民俗資料館に出かける等、利用者の家族や馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や諸活動時に必要性を感じる時には仲介をし、良好な関係を構築できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が望む場合は退所後も相談やアフターフォローをさせていただいている。隣接の老健に入所した場合には、定期的に状態を拝見しに訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常会話から、今思っていること等を汲取り、職員間で情報共有し、なるべく希望を実現できるよう努めている。意思疎通が困難な方には、その方にとって必要であろうことを想像して援助している。	ほとんどの利用者は、意思表示ができるので、日常会話の中から思い等を把握しており、意思表示が難しい利用者は、表情や動作から意思を推測して支援している。入浴時は、職員が利用者から本音を聞くことのできる良い機会となっている。自宅に帰りたい、一緒に散歩して欲しい等の希望が多く、朝の申し送りや個別の記録を作成し、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人やご家族に、生活歴や趣味、嗜好を伺い、ケアのヒントにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を介護記録に記しており、詳しく申し送りをする中で、全職員が心身状態の変化等を把握できるようにしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意見や要望を聞き取り、ケア内容に関しては実際に携わる職員も交えて検討している。	入居時に作成した介護計画は、3ヵ月後に見直している。その後、6ヵ月毎の見直しを基本とし、状態が変化した場合は随時見直している。計画の原案は介護支援専門員が中心となって、利用者、家族と話し合っ作成し、職員の意見を聞いて決定している。決定した計画は家族の来所時に直接説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録に記すことで、計画の実践状況等の情報共有している。記録を元に評価し、利用者の状態に応じて、計画を適宜変更することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者のニーズに対応して、ホーム内だけでなく、併設の施設や多くの社会資源を十分に活用した支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	卓球を趣味にしている利用者があり、日々の練習の成果を発揮する場として、障がい者スポーツ大会に参加していただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、情報提供書を作成したり、必要時は同行し直接医師と話をしている。ホームと医師間の電話での相談や情報共有も行うこともある。	受診する医療機関は、利用者や家族の意向を尊重している。利用者は、町内の診療所か盛岡市内の医療機関を家族同伴で受診している。受診する際には、事業所が作成した情報提供書を家族が持参している。県外に家族がいる場合は、県内に住む親族が受診に同行している。協力歯科医療機関の歯科医師が週1回来所している。また、介護老人保健施設の看護師が健康観察のため毎月来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健に常駐している看護師に、医療面での相談や、急変時の指示等を受けている。また、月1回医療カンファレンスを行い助言をいただいている。		

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は定期的に面会に行き、看護師や相談員から状態、今後の見通し等を聞き取りしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りは行っていないことを説明している。重度化しグループホームでの生活が困難になってきた場合は、併設の老健やその他施設入所等の様々な選択肢の提案をしているが、基本的には重度化する前に早い段階で主治医と話し合いをしている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、隣接する老人保健施設が年2回開催する研修会を職員が受講し知識を深めている。機械浴槽もないことなどから、家族に対しては、重度化した場合には隣接の老健施設を中心に転院をあらかじめ提案している。老健施設の看護師が毎月健康観察に来るなど、利用者との関係性も近いため老健施設への転院が多いのが実態である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習を修了している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で定期的に避難訓練を行っている。有事の際には、併設の施設から応援にきてもらえるような体制にしている。	火災を想定し年2回避難訓練を実施しており、9月に1回目の避難訓練を消防署の協力を得て実施している。訓練では、夜間を想定し老人保健施設職員2人が利用者の避難誘導に携わっている。ハザードマップ上は、浸水や土砂災害の危険地域とはなっていない。缶詰や麺類等食料3日分、カセットコンロ、反射式ストーブ等を備蓄している。	今後実施予定の避難訓練においては、夜間に避難する上での課題を把握する意味でも、先ず職員だけで外が暗い時間帯に実施するほか、地域との協力を深めるため、近隣住民を代表する運営推進委員にも一定の役割を務めてもらうことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れずに、言葉遣いや態度に注意し援助している。同性介護を念頭に置いて援助をしている。	利用者一人一人の人格を尊重するよう言葉遣いに気を付けて支援するよう心掛けている。呼び方については、呼ばれなれている名前で呼ぶようにしている。排泄や入浴は同性介助を基本とし、排泄で失敗した時には、すばやく着替えできるよう支援し、入浴時はドアを閉めて介助している。個人情報が入った書類は、外部の人の出入りのない事務室に保管している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせず、希望や思いを発言できるような雰囲気づくりに努めている。リスクが伴うこと以外では利用者様に決定していただくよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での諸活動以外では、各々思い思いに過ごされている。余暇活動では、編み物や卓球等、趣味活動の援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容ケアは日常的に行っている。また、入浴後の着替え等は自分で選んでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、季節感を大切に献立を立てている。また、好きな食べ物や嫌いな食べ物を聞き取りし、参考にして調理している。	利用者の要望を聞きながら職員が献立を作成し、調理している。利用者の要望に応えたラーメン等の麺類やカレーライス、オムライス等を「うめえなあ」と言いながら食べており、残食はほとんどない。行事食として主にちらし寿司などのほか誕生日にはケーキを提供して喜ばれている。事業所の裏側に「たんたん畑」と呼ばれる畑があり、利用者と職員と一緒に収穫したトマトやキュウリ、ナス等の野菜を食材として利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は把握している。食事に関しては、一人ひとりの好みの量や物を提供し、栄養状態が維持できるよう援助している。水分に関しては、水分を摂りたがらない方には、好みの飲み物等で水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し、自分で義歯洗浄やブラッシングが困難な方には介助を行っている。また、夕食後はポリデントを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している利用者はなし。各利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し表情、時間帯及び回数等を考慮して誘導し、トイレでの排泄や自立に向けた支援に努めている。9人の利用者のうち自立し布パンツの利用者が4人、他の5人はリハビリパンツとパットを利用している。オムツを利用している利用者はいない。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取していただいたり、各利用者に合った乳製品(牛乳、ヤクルト等)を摂取していただいている。毎日排便チェックを行っており、数日排便が見られない場合は、処方された下剤を服用し排便処理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で曜日、時間帯は固定している。入浴時間等は特に制限しておらず、好きなだけ入浴を楽しんでいただいている。好みの入浴剤を使用する利用者もいる。	週2回、午後2時から4時までの間としているが、時間制限をせずにゆっくりと入浴を楽しんでいただいている。入浴を嫌がる方にはあえて強制していない。入浴中に音楽を流したり、職員と一緒に歌う利用者もいる。若い頃の話の聞いたり、思っていることを聴ける貴重な機会となっている。入浴の際には、入浴剤を使う等して、ゆったりと入れるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態を観察して、午睡の時間を設けたり、就寝時間を調整している。消灯は21時だが、基本的には各利用者の休みたいタイミングで臥床されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の指示に従い服薬支援している。症状が悪化した際には、併設老健の看護師やかかりつけ医に電話等で相談することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	卓球や編み物等、各利用者の趣味活動の支援を行っている。春には障がい者スポーツ大会の卓球競技に参加していただいた。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、敷地内の散歩に出掛けられている。また、花見ドライブや春のピクニック、紅葉ドライブ等の行事で車を使用した外出も行っている。	天気の良い日には、敷地内にある老人保健施設の周囲に花を見ながら散歩に出たり、事業所の裏側にある東屋で休みながら「たんたん畑」の野菜を収穫して楽しんでいる。春には盛岡市にある県営体育館へ花見に出かけ、秋には葛根田溪谷に紅葉狩りにドライブに出かけている。また、手づくり弁当を持って町内の町場地区園地や雫石町歴史民族資料館にピクニックに出かけて楽しんでいる。卓球の好きな利用者がおり、6月の県障がい者スポーツ大会で銅メダルを獲得するなど対外的な大会への参加を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の現金は所持していただいている。大きな金額の現金に関しては、捨てたり、紛失したりすることがあるため施設で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族等に電話希望があるときは、施設の電話を使用し連絡をとっていただいている。自前の携帯電話を持っているかたもいる。]		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内全体が殺風景にならないように、壁には行事の写真や作成した作品を展示したり、季節ごとの飾りを飾っている。日々の清掃も利用者と一緒にいき、ホームの美化に取り組んでいる。	居間や食堂、台所の間に壁がなく見渡せるようになっており、天井には高窓もあるため開放感に溢れている。壁面には、利用者の作品や行事の写真が飾られている。居間には、和室もありくつろぎのスペースとなっており、飼い猫の「マイケル」もソファーに寝そべる等、癒しの場にもなっている。床暖とエアコンによって快適に温度管理され、ソファーや和室でテレビを見たり、会話を楽しむ等居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには3人掛けのソファを設置し並んでテレビを見られたり、ダイニングでも大人数で作業や諸活動ができる。また、居室ではひとりで編み物等の作業ができるように明るい環境になっている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	使い慣れた食器等を使用していただいている。ま た、家具や寝具等もこだわりがある方は、ご家族 に持ってきていただき使用している。	居室には、木製ベッドやクローゼット、洗面ユニッ ト、FFストーブが備え付けられている。利用者 は、使い慣れた筆筒や布団、椅子、テレビ、衣装 掛け、写真等を持ち込み居心地良く過ごせる環 境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに役割を担っていただき、全員 が主役になれるように配慮して支援している。リ スク管理をしながら、できることはなるべく自分 で行っていただくように心がけている。		